

## 上田市基本データ

### <概略>

外国人登録者数 4,500人(21.12月末) 総人口 164,260人  
外国人割合 2.7%

国籍別 ブラジル 1,551人(34.5%)、中国 1,101人(24.5%)、  
ペルー 390人(8.7%)

特徴 ①ブラジル人が減少(ピーク時 約 3,300人)  
②在留資格：「定住者」減少、「永住者」増加

### <主たる産業>

電気・機械・輸送用機器

### <雇用>

有効求人倍率 0.35倍  
(21.11月)

### <教育>

外国籍児童生徒数 273人(21.10月) 在籍率 1.9%  
\*ピーク時：313人(20.5基本調査)

国籍別 ブラジル 131人(48.0%)、ペルー 42人(15.4%)、  
中国 26人(9.5%)

就学前のこどもの数 325人(21.12月 外国人登録者数から)

中学卒業後の進路 公立高校(定時制含)19、就職1、家居4、  
(21.3実績 26人) 帰国2

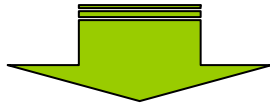
特徴 ①外国人登録者数の減少 ≠ 外国籍児童生徒数の減少  
②南米系の外国籍児童生徒においても同様の傾向

## 「定住外国人の子ども＝「第二世代」育成の必要性

外国人集住都市会議の提言においても  
「教育環境の整備、特に外国人の子どもの就学の義務化」

### <現状>

- ・日本語の理解度に個人差がある。
- ・日常会話は可能でも、学習言語の習得が難しい。
- ・多言語による教材の不足（例：社会科）
- ・学校内や地域における指導者の不足
- ・保護者の日本語能力の不足と教育に対する考え方の相違
- ・保護者は、家庭では子どもと、学校では教師との意思疎通に難
- ・不就学実態調査の必要性と実態把握の困難さ



### <実施施策>

- ・集中日本語教室「虹のかけはし」 → 入学後の入級前指導
- ・日本語適応指導員(バイリンガル)の配置(但し、学校を兼務)
- ・就学援助制度の適宜適切な対応
- ・中学校卒業生で高校を目指す子ども達のための学習支援

### <望まれる支援の方向性>

～将来を見据え、教育上のハンディをなくす～

**基本** 日本語の習得とより高い学力を目指す  
ための学習支援 → **学力保障**

- 1 指導員(バイリンガル)の手厚い配置  
→ 心の安定 + アイデンティティの確保
- 2 奨学金等の経済的支援(経済界・企業等との連携)
- 3 企業・職業訓練校等における職業体験、  
インターンシップ等の必要性
- 4 第二世代を育てる保護者への日本語習得  
支援と教育制度等の理解促進
- 5 保護者の経済的安定

### <留学生>

市内4大学のうち2  
大学に留学生在学

信州大学  
8ヶ国、85人  
長野大学  
3ヶ国、120人

●来日前の日本語習得は必須

- 信州大学
  - ・院生多い
  - ・進路：半数は研究生、就職は7割が日本国内
- 長野大学
  - ・中国人多い
  - ・進路：都市部の大学院へ。就職は少ない。